

## 昭和新山の奇跡

小学校高学年の社会科の授業で「昭和新山」を勉強したことを鮮明に記憶している。平坦な畑だった土地が、地震と共に突然隆起して火山が誕生したのだ。昭和時代に起こった大自然が織りなす奇跡であった。それ以来いつの日か自分の目で確かめたいと願ってきたが、この歳になって偶然の出会いのようにして見学できた。

北海道・洞爺湖には緑豊かな森が湖に迫りくるような広がりを見せていた。北海道の春は遅くこの時期に牡丹桜が満開であった。眩しいほどの湖面の光に照らされて目に見えるすべてが春に輝いていた。

その中で一際目立つ茶褐色に包まれ、岩肌がごつごつと剥き出しとなる山を見つけた。昭和新山だ。国の特別天然記念物、日本の地質百選、日本ジオパーク、世界ジオパークにも選定されている貴重な自然遺産である。近くに寄ると標高 398m のペロニーテ型火山の土壌は、溶岩の熱で焼かれた煉瓦のようで迫力満点だ。よく見ると所々から白い噴煙を上げている。火山は生きているのだ。

この山の誕生は長年に渡り麦畑や集落であったが、突如 1943（昭和 18）年 12 月から 2 年間に 17 回の活発な火山活動により生じた溶岩ドームである。富士山の誕生は 10 万年前。阿蘇山の誕生は 30 万年前からすると昭和新山は生まれたばかりの赤ちゃんなのだ。この間の火山誕生に至るまでの変化様子を、元郵便局長であった三松正夫は詳細に渡って視察記録している。そして火山となってしまった土地を、彼は私財を投じて買い取りそれまで生活してきた住民を支援している。結果的に昭和新山は世界でも稀な個人所有の火山となっている。



撮影 2015 年春



